

Create!Form アップデートマニュアル

[V6 → V10]

- ・ FormCast
- ・ FormPrint

2014年6月
インフォテック・アーキテクト株式会社

目次

1. はじめに.....	3
2. 互換性に関わる項目.....	4
① 互換性に関わる項目一覧.....	4
② 互換性に関わる項目の詳細.....	5
A. ランタイム実行ログの設定方法.....	5
B. JavaAPI の互換性について.....	5
C. 利用可能な XML データエンコーディングの変更.....	5
D. 同名変数の扱い.....	6
E. 空データに対するデータ編集の扱い.....	7
F. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い.....	8
G. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い.....	8
H. グラフ変数の間隔設定の扱い.....	9
I. テキスト変数の流し込み処理の扱い.....	9
J. テキスト変数の配置設定の扱い.....	10
K. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い.....	11
L. フォーム変数の扱い.....	11
M. XML データ形式の扱い.....	12
N. ランタイムライブラリ（COM ファイル）を ASP から呼び出して実行する方法.....	12
O. ランタイムライブラリ（DLL ファイル）を直接呼び出して実行する方法.....	13
P. EXE ランタイム（Windows 版）の戻り値の変更.....	13
Q. イメージ変数の出力位置の扱い.....	14
R. PostScript フォントの表示の扱い.....	15
3. アップデート手順.....	16
① V10 製品のインストール.....	16
② 互換性に関わる項目の確認.....	16
③ 資源ファイルの変換.....	18
④ ユーザー設定ファイルの移行.....	18
※重要.....	21
4. おわりに.....	22

1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のものと互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または技術の変化や市場のニーズに追従する事などを目的として改良を行います。改良を行う時には従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するように努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、**Create!Form** 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン : Version 6 (以下 V6 と記述)

アップデートバージョン : Version 10 (以下 V10 と記述)

※本マニュアルで、「開発環境」については **Create!FormDesign**、「運用環境」については **Create!Form** ランタイム製品が導入された環境を示します。

2. 互換性に関わる項目

V10 から一部仕様変更されたため、出力結果やランタイムの動作において旧バージョンと差異が生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか互換性に関わる項目について説明します。

① 互換性に関わる項目一覧

[全ランタイム対象]

- A. ランタイム実行ログの設定方法
- B. JavaAPI の互換性について
- C. 利用可能な XML データエンコーディングの変更
- D. 同名変数の扱い
- E. 空データに対するデータ編集の扱い
- F. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い
- G. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い
- H. グラフ変数の間隔設定の扱い
- I. テキスト変数の流し込み処理の扱い
- J. テキスト変数の配置設定の扱い
- K. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い
- L. フォーム変数の扱い
- M. XML データ形式の扱い

[Windows ランタイム対象]

- N. ランタイムライブラリ（COM ファイル）を ASP から呼び出して実行する方法
- O. ランタイムライブラリ（DLL ファイル）を直接呼び出して実行する方法
- P. EXE ランタイム（Windows 版）の戻り値の変更

[FormPrint ランタイム対象]

- Q. イメージ変数の出力位置の扱い
- R. PostScript フォントの表示の扱い

②互換性に関わる項目の詳細

A. ランタイム実行ログの設定方法

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V10 ではログローテーション機能の実装に伴い、実行ログの設定方法が変更されました。また、Linux/UNIX 環境では、環境変数による設定方法から設定ファイル (logsetup_u.properties) による設定方法に変更されました。

[対処]

インストールマニュアルの「1-16-4. ログファイルの出力設定」(P109) の内容に従ってログ出力の設定を行ってください。

B. JavaAPI の互換性について

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・JavaAPI を利用したランタイム実行

[内容]

製品付属の JavaAPI は、旧バージョンでは “java2create.jar” として提供されていましたが、V10 では “CreateFormLib.jar” として提供されます。

“CreateFormLib.jar” では、新たにランタイム実行用のメソッド等が追加されていますが、“java2create.jar” のランタイム実行メソッドもそのまま使用することができます。

“CreateFormLib.jar” の詳細は、製品付属のオンラインマニュアル「JavaAPI リファレンス」を参照してください。

C. 利用可能な XML データエンコーディングの変更

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・XML データマップ形式の帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V10 では XML データの解析に使用する XML パーサを Xerces-C++(2.8.0)ライブ

ラリに変更しました。このため、XML データで利用できるエンコーディングが以下の様に変更されます。

V6 で利用可能な XML データのエンコーディング

- ・ Windows
SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16
- ・ UNIX
SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16

V10 で利用可能な XML データのエンコーディング

- ・ Windows
SJIS、UTF-8、UTF-16 （※EUC は使用することができません）
- ・ UNIX
UTF-8、UTF-16 （※SJIS、EUC は使用することができません）

D. 同名変数の扱い

[対象]

- ・ 全ランタイム製品
- ・ UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「**変数名重複**」と指摘されたフォームファイルを V10 で再編集する場合

[内容]

旧バージョン（V6）では1つのフォームファイルに同じ変数名の変数オブジェクトを定義することができましたが、V10 では1つのフォームファイルに同じ変数名の変数オブジェクトを定義してフォームファイルを保存することはできません。

[対処]

同名変数が定義されたフォームファイルを V10 環境で再編集して保存する場合、以下の設定を行ってフォームファイルを保存するか、もしくは、同名変数を別の変数名にリネームして保存し、データマップファイルの修正を行ってください。

ただし、以下の設定を行った場合、FormPrint ランタイムの実行において一部の機能を使用することができませんのでご注意ください。

なお、本作業は V10 環境でフォームファイルを再編集しない場合、行う必要はありません。

フォームファイル保存手順

1. 同名変数が定義されているフォームファイルをフォームエディタで開きます。

2. [ファイル]メニューの[フォーム設定]をクリックします。
3. [ステータス]タブの[旧来方法の出力位置指定]チェックボックスにチェックを入れます。
4. [OK]ボタンをクリックします。
5. フォームファイルを上書き保存します。

機能制限

- ・ CSV データの集計機能
- ・ CSV データの重複非表示機能
- ・ 動的オブジェクト機能
- ・ オブジェクト色の条件判別機能
- ・ テキスト変数のリスト形式データの出力機能
- ・ 表オブジェクト

E. 空データに対するデータ編集の扱い

[対象]

- ・ 全ランタイム製品
- ・ UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「**空データのデータ編集**」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

フリーフォーマットによるデータ編集を設定している場合、空データに対する編集処理が以下のように異なります。

V6 の場合 ……データ編集が行われます。

(たとえば、[ins]など文字列付加のデータ編集において、指定文字列が付加されます)

V10 の場合 ……データ編集が行われません。

[対処]

以下の互換設定で、V10 で V6 と同じ出力結果を得ることができます。

Windows

V10 製品導入ディレクトリ直下の”CreateV10.ini”の[Common]セクションに”DataEditMode = 1”と入力します。

UNIX

環境変数 ”CREATE_DATAEDITMODE” に”1”を設定します。

F. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・UpToV10 で互換性のチェックを行った際に「データ編集の競合」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V10 ではデータ編集設定が Form エディタに移動し、フォームファイルの各変数ごとにデータ編集を設定するよう変更されました。この変更に伴い、旧バージョンで1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルで使用し、且つそれぞれのデータマップファイルで異なるデータ編集を1つの変数に対して設定している場合に帳票資源ファイルの修正が必要となります。

なお、この仕様変更の影響があるかどうかは、UpToV10 で互換性のチェックを行うことで確認することができます。

[対処]

複数のデータマップファイルで共通利用されているフォームファイルをコピー・リネームして、それぞれのデータマップファイルに1つのフォームファイルを用意してください。次に、コピー・リネームしたフォームファイルをジョブファイル（.sty）に再登録した状態で UpToV10 を使用して帳票資源ファイルの変換を行ってください。

G. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

積み上げ棒グラフは、下から上に積みあがって描画されるため、凡例もグラフの描画に合わせて下から上に描画されるように改善されました。

（V10 の場合、積み上げ棒グラフの凡例は上から下へ描画されます）

H. グラフ変数の間隔設定の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

旧バージョンの棒グラフと横棒グラフの間隔は、第1要素の1系列目の終わりより第2要素の1系列目の開始位置までとなっておりましたが、V10では第1要素の最終系列目と第2要素の1系列目の開始位置までと変更したため、要素の間隔が広がります。

なお、グラフ変数において間隔を設定していない場合、間隔を設定していても1つの要素内で1つの系列のみを表示している場合は該当いたしません。

[対処]

以下の互換設定でV10とV6で同じ出力結果を得ることができます。

Windows

V10製品導入ディレクトリ直下の”CreateV10.ini”の[Common]セクションに
“GraphSpace=1”と入力します。

UNIX

環境変数”CREATE_GRAPHSPACE”に”1”を設定します。

なお、帳票資源ファイルを編集することでも対応することができます。

編集方法は、帳票資源ファイルのバージョンアップ後にグラフ変数のプロパティを開き、以下の計算式にて算出される値を「間隔」へ設定してください。

$$\text{V10で設定する間隔} = \text{V6に設定されている間隔} - \text{V6に設定されている幅} \\ \times (\text{1つの要素で表示する系列数} - 1)$$

I. テキスト変数の流し込み処理の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

テキスト変数の配置設定を「流し込み」に設定した場合の処理可能なデータサイズを拡張したため、出力結果がV6とV10で異なることがあります。

なお、V6マイナーバージョンによっては、互換モードの適用は行いません。以下

の手順で互換モードの適用が必要かどうかの確認を行ってください。

Windows

- ① Create!Form 導入ディレクトリの、Cast 製品であれば” PDFEdit.dll” を、Print 製品であれば” PrtEdit.dll” を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- ② [バージョン情報]タブをクリックします。

UNIX

- ① Cast 製品であれば” CCast -- “、Print 製品であれば” CPrint ? “を実行します。

表示されたバージョンが” 6.1.0.24” 以前であれば以下の対処が必要です。
” 6.1.0.25” 以降であれば必要ありません。

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V10 で V6 と同じ位置に出力することができます。

Windows

V10 の製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10.ini” の[Common]セクションに
” ParaEditMode = 1” と入力します。

UNIX

環境変数 ” CREATE_PARAEDITMODE” に “1” を設定します。

J. テキスト変数の配置設定の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

フォームにおいて、「流し込み」「自動改行」に設定されているテキスト変数が、データマップにおいて「左」「中央」「右」に設定されている場合（フォームファイルとデータマップファイルにて設定の不整合が発生している場合）、次のように出力結果に差異が生じます。

- ・V6 の場合、必ず「左」にて出力されます。データ編集を設定している場合は、データ編集が有効になります。
- ・V10 の場合、フォームの設定（「流し込み」「自動改行」）で出力されます。データ編集は有効になりません。

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V10 で V6 と同じ改行を行うことができます。

- ① V10 の製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10. ini” の[Form]セクションに” TextPosMode = 1” と入力します。
- ② 設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。または、①設定の後、UpToV10（資源ファイル変換ツール）にて、フォームファイルを変換します。この設定は、開発環境にて行います。

K. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

固定テキストの位置合わせ設定を「真中」に設定した場合、次のような差が生じます。

- ・V6 の場合は、固定テキストの領域の真中より若干下に表示されます。
- ・V10 の場合は、固定テキストの領域の真中の表示されます。

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V10 で V6 と同じ改行を行うことができます。

- ① V10 の製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10. ini” の[Form]セクションに” TextPosMode = 1” と入力します。
- ② 設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。または、①設定の後、UpToV10（資源ファイル変換ツール）にて、フォームファイルを変換します。この設定は、開発環境にて行います。

L. フォーム変数の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V6 でのフォーム変数を使用してフォームを切り替える機能が、V10 で本機能を廃止して新たな機能「マルチフォーム」へ吸収いたしました。

- ・V6 の場合、フォーム変数でフォーム切り替えが可能。
- ・V10 の場合、新たな機能「マルチフォーム」を使用する。

[対処]

V10 の開発環境にて、新たに V10 用に帳票資源ファイルを修正していただく必要があります。移行の際のご相談については、弊社サポートサイトまでご連絡ください。

M. XML データ形式の扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V10 において、XML データ形式の見直しを図った結果、CSV データなどその他データ形式の設定手法との統一感、XML データ形式自体の設定の分かりやすさの観点から仕様の変更を行うことになりました。

V6 において、XML データ形式の出力を行っている場合、UpToV10（資源ファイル変換ツール）にて、XML 用の資源ファイル（dmx、stx）を V10 に変換することができません。

[対処]

V10 の開発環境にて、新たに V10 用に資源ファイルを作成していただく必要があります。移行の際のご相談については、弊社サポートまでご連絡ください。

N. ランタイムライブラリ（COM ファイル）を ASP から呼び出して実行する方法

[対象]

- ・Windows ランタイム製品
 - ・COM ファイル（.dll）を ASP から呼び出してランタイムを実行している場合
- ※JavaAPI、.NetAPI、ランタイム EXE（.exe）を利用してランタイムを実行している場合は影響ありません。

[内容]

V10 のインストーラでは Windows の system32 ディレクトリにランタイムライブラリがインストールされません。そのため、COM ファイルを ASP から呼び出してランタイムを実行する場合、以下の対処が必要となります。

[対処]

製品導入ディレクトリに環境変数（PATH）を通すか、もしくは製品導入ディレクトリから c4x.dll（64bit 版は c4x_64.dll）を Windows の system32 ディレクトリ

にコピーしてください。

O. ランタイムライブラリ (DLL ファイル) を直接呼び出して実行する方法

[対象]

- ・ Windows ランタイム製品
 - ・ DLL ファイル (.dll) を直接 LoadLibrary 関数で呼び出してランタイムを実行している場合
- ※JavaAPI、.NetAPI、ランタイム EXE (.exe) を利用してランタイムを実行している場合は影響ありません。

[内容]

V10 のインストーラでは Windows の system32 ディレクトリにランタイムライブラリがインストールされません。そのため、以下の DLL ファイル (.dll) を直接 LoadLibrary 関数で呼び出してランタイムを実行する場合、以下の対処が必要となります。

DLL ファイル (.dll)

- ・ CCast.dll (FormCast ランタイム)
- ・ CPrint.dll (FormPrint ランタイム)

[対処]

製品導入ディレクトリに環境変数 (PATH) を通すか、もしくは製品導入ディレクトリから上記 DLL ファイルと c4x.dll (64bit 版は c4x_64.dll) を Windows の system32 ディレクトリにコピーしてください。

P. EXE ランタイム (Windows 版) の戻り値の変更

[対象]

- ・ Windows ランタイム製品
 - ・ ランタイム EXE ファイル (.exe) を直接呼び出してランタイムを実行している場合
- ※JavaAPI、.NetAPI を利用してランタイムを実行している場合は影響ありません。

[内容]

以下のランタイム EXE ファイルを直接呼び出してランタイムを実行する場合の戻り値が変更されました。

V6 の場合・・・常に「0」が返ります

V10 の場合・・・正常終了時には「1」、警告、エラー発生時にはエラー番号
(マイナス値 4 桁) が返ります。

EXE ファイル (.exe)

- ・ CCast.exe (FormCast ランタイム)
- ・ CPrint.exe (FormPrint ランタイム)

Q. イメージ変数の出力位置の扱い

[対象]

- ・ FormPrint ランタイム製品

[内容]

一般的な画像は単体では座標を持ちませんが、高機能な EPS 形式のデータでは描画の基準座標を任意に設定することが可能です。V6 では、この基準座標が (0, 0) の場合を前提にしていたので、そうでない EPS データの場合のズレを変数位置の調整で行った場合、V10 の改良機能が働くとその調整位置に表示される結果となります。

このズレの問題は、最終的には、基準座標が (0, 0) 以外の EPS データを使用しているかどうか依存します。V10 の段階でイメージ変数に EPS ファイルのデータを投入した時の、出力起点位置の補正機能を加えたことにより、V6 と V10 で出力位置が異なる場合があります。

[対処]

次のような互換設定を行うことで、V10 で V6 と同じ位置に出力することができます。

Windows

V10 の製品導入ディレクトリ直下の "CreateV10.ini" の [Common] セクションに、
"ImageOffset = 1" と入力します。

UNIX

環境変数 "CREATE_IMAGEOFFSET" に "1" を設定します。

R. PostScript フォントの表示の扱い

[対象]

- FormPrint ランタイム製品

[内容]

PostScript フォントを指定しても、Cast のフォント代替処理が反映されるという V6 の不具合のため、フォームにおいて以下の PostScript フォントを利用している場合、V6 と V10 で出力フォントが異なります。

- V6 の場合、代替フォント (※) で出力されます。
- V10 の場合、指定の PostScript フォントで出力されます。

(※)代替フォントについては、V10 製品の FormDesign のメニュー「ヘルプ」-「オンラインマニュアル」より起動する HTML より、「3. 機能リファレンス」-「3. 6: フォントの指定・多国語出力」の「フォント」より表示される PDF の「FormCast」の欄をご覧ください。

発生条件は次の 1、2 の条件が揃った場合となります。

1. 固定テキスト、テキスト変数、日付変数、ページ変数を利用している。
2. 以下のフォントを利用している。

AvantGarde、Helvetica-NarrowBookman、
NewCenturySchlbk、Palatino、ZapfChancery

[内容]

次のような互換設定を行うことで、V10 で V6 と出力を行うことができます。

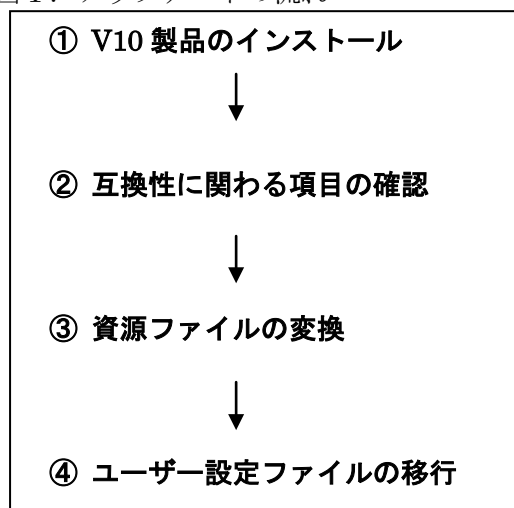
- ① V10 の製品導入ディレクトリ直下の” CreateV10. ini” の[Form]セクションに
”ChangeFontType=1”と入力します。
- ② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。または、①
設定の後、UpToV10 (資源ファイル変換ツール) にて、フォームファイルを変換します。

この設定は、開発環境にて行います。

3. アップデート手順

ここではシステム環境に V10 をインストールし、アップデートする手順を示します。

図 1. アップデートの流れ



資源ファイルとは、フォームファイル、データマップファイル、ジョブ（スタイル）ファイルの各帳票資源ファイルを指します。ユーザー設定ファイルとは、帳票開発環境、ランタイム実行環境共通で使用する設定ファイルです。

① V10 製品のインストール

まず最初に V10 製品のインストールを行います。V10 製品のインストールは、V10 製品の「インストール」マニュアルに沿って行ってください。なお、V6 製品がインストールされた環境と同じ環境へ V10 製品をインストールする場合、V6 製品とは異なるディレクトリへ V10 製品をインストールしてください。

② 互換性に関わる項目の確認

ご利用の資源ファイルが「互換性に関わる項目」に該当するかどうかは、FormDesign 製品付属の資源ファイルバージョンアップツール（以後、UpToV10）で確認することができます。UpToV10 で確認できる項目は、以下の内容です。

D. 同名変数の扱い

E. 空データに対するデータ編集の扱い

F. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い

H. グラフ変数の間隔設定の扱い

- I. テキスト変数の流し込み処理の扱い
- J. テキスト変数の配置設定の扱い
- K. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い
- L. フォーム変数の扱い
- M. XML データ形式の扱い
- Q. イメージ変数の出力位置の扱い
- R. PostScript フォントの表示の扱い

確認は以下の手順で行います。

1. V10 製品付属の “UpToV10” を起動します。
スタートメニューの [FormDesign ツール]、またはマネージャのメニュー [オプション]-[UpToV10] より起動できます。
2. 「変換元ディレクトリ」に V6 の資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
3. 「互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
4. 互換性に関わる項目に該当する資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック] ダイアログが表示されます。また、製品導入ディレクトリ直下の log ディレクトリにチェック結果のログファイル “UpToV10_Diff.log” が出力されます。
5. 該当する資源ファイルが存在する場合、「互換性に関わる項目」に対応した [対処] を行ってください。

[互換性チェック]ダイアログの見方

- ・ファイルリスト

互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の [チェック項目リスト] に表示され、該当する項目には○印が表示されます。

以下へ帳票資源ファイルごとに表示されるチェック項目を記載します。なお、「<>」で記載している内容は UpToV10 の互換性チェックで表示されるダイアログのリストに表示される項目名です。

- ・ fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目

以下の内容に該当するかを表示します。

- D. 同名変数の扱い … <変数重複>
- F. 1 つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い … <データ編集>
- H. グラフ変数の間隔設定の扱い … <グラフ間隔>
- I. テキスト変数の流し込み処理の扱い … <流し込み>

- J. テキスト変数の配置設定の扱い … <配置設定>
 - K. 固定テキスト文字列の上下位置の扱い … <上下位置>
 - R. イメージ変数の出力位置の扱い … <出力位置>
 - S. PostScript フォントの表示の扱い … <PS フォント>
- **dmp** ファイル（データマップファイル）のチェック項目
以下の内容に該当するかどうかを表示します。
 - E. 空データに対するデータ編集の扱い … <空データのデータ編集>
 - L. フォーム変数の扱い … <フォーム変数>
 - **sty** ファイル（ジョブファイル）のチェック項目
以下の内容に該当するかどうかを表示します。
 - M. XML データ形式の扱い… <入力データ形式>
※該当する場合は「XML」と表示されます。

③ 資源ファイルの変換

資源ファイルの変換作業は、互換性の問題にかかわらず必ず行います。

V6 で使用していた帳票資源ファイルを変換ツール（UpToV10）を使用して V10 で使用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換した V10 の資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送します。

1. V6 の資源ファイル一式を FormDesign V10 をインストールしたマシンにコピーします。
2. V6 の資源ファイルを、FormDesign V10 製品付属の UpToV10 で V10 の資源ファイルに変換します。

④ ユーザー設定ファイルの移行

V6 で使用しているユーザー設定ファイルを V10 環境へ移行する作業を行います。

ユーザー設定ファイルには、次のようなファイルがあります。

- QDF ファイル
- 印刷詳細設定ファイル
- データ編集定義ファイル
- フォント情報定義ファイル
- 外字ファイル
- PDF セキュリティ設定ファイル
- カラーパレットファイル

V6 環境にて独自の設定を追加している場合、そのファイルを V10 の環境にコピーする必要があります。

1. QDF ファイルのコピー

V6 で使用している QDF ファイルを、全て V10 の導入ディレクトリに上書きします。この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で QDF エディタを使用して QDF ファイルの新規作成及び編集を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” default.qdf” ファイルをリネーム(保存用)します。
- (2) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

2. 印刷詳細設定ファイルのコピー

V6 で使用している印刷詳細設定ファイル (.ppd、.spd) を、全て V10 の導入ディレクトリに上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で印刷詳細設定ファイルを使用した印刷を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “ppd” ディレクトリの拡張子” .ppd” のファイルを全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “ppd” ディレクトリにコピーします。
- (2) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “styppd” ディレクトリの拡張子” .spd” のファイルを全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “styppd” ディレクトリにコピーします。

3. データ編集定義ファイルのコピー

V6 のデータ編集機能においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、インストール時に登録されたデータ編集とは別に、新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、ユーザー定義編集を追加していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” EFmEdit.dat” ファイルを V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

4. フォント情報定義ファイルのコピー

V6 のフォントマネージャで PostScript フォントを登録して使用している場合、フォント情報定義ファイルを V10 環境へコピーします。

この作業は開発環境 (FormDesign) にて行います。

なお、新規にフォントを登録していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” fonts.dat” ファイル、
” fontnums.dat” ファイルを V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に
コピーします。

5. 外字ファイルのコピー

V6 で外字を使用している場合、外字ファイル (標準では EUDC.TTE) を V10 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、外字を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” font” ディレクトリ、の外字ファイル (標準では EUDC.TTE) を V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の” font” ディレクトリにコピーします。
なお、Windows の “Fonts” ディレクトリの外字ファイル (標準では EUDC.TTE) を使用している場合は、V10 導入環境の Windows の “Fonts” ディレクトリに外字ファイルをコピーします。

6. PDFセキュリティ設定ファイルのコピー

V6 で PDF セキュリティ設定を SEC ファイル (.sec) に登録して使用している場合、SEC ファイルを V10 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

- (1) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の “sec” ディレクトリの拡張子
” .sec” のファイルを全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の
“sec” ディレクトリにコピーします。

7. カラーパレットファイルのコピー

V6 で独自の色設定を作成して使用している場合は、カラーパレットファイルを V10 の導入ディレクトリに上書きします。

この作業は開発環境 (FormDesign) にて行います。

なお、色設定を作成していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

- (1) V6 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子” .plt” のファイル (カラーパレットファイル) を全て、V10 の Create!Form 導入ディレクトリ直下にコピーします。

※重要

V6 ご利用の際にさらに下位のバージョン (V4~V5) の互換設定を行っていた場合は、V10 においてもその互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては、対応するバージョンのアップデートマニュアルに記載されております。アップデートマニュアルは弊社サポート HP よりダウンロードしてご確認ください。

4. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、弊社サポートページよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ サポートホームページ

URL : <https://support.createform.net/>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : support-c@iftc.co.jp

Create!Form

アップデートマニュアル[V6 →V10]

発行日 2014年6月5日 [第1版]

発行者 インフォテック・アーキテクト株式会社